

お

北アメリカ原住民の絵文字 英 Pictographs/Petroglyphs in North America

北アメリカ原住民の社会では、一般的に口頭伝承の伝統が根強く、神話・民間説話や技術、儀式などのしきたり、歌などは代々口頭で伝えられ、また、生活集団の規模も小さかったことから、記述や意思の疎通の手段としての書き言葉の必要性がなく、白人社会と接触する前には文字の発達はほとんど見られなかった。西洋社会との接触後、宣教師や現地語の話者によって、英語やドイツ語などのアルファベットを基に多くの部族で文字が考案され、聖書の現地語訳や新聞などの刊行物、公式文書などに使われた。これらの文字については、「アラスカ文字」「ウィニペゴ文字」「エスキモー文字」「クリー文字」「チェロキー文字」「フォックス文字」「ミーカー文字」の項を参照されたい。

このように伝統的には文字をもたない北アメリカ原住民であるが、表象の手段として先史時代から広く使われたものに、いわゆる「絵文字」がある。これらの「絵文字」は「文字」とはいうものの、たとえばエジプト文字のように表音文字(特定の「絵」が特定の言語音を表わす)でもなく、また、わずかな例外を除いて(「ミクマック象形文字」の項参照)、漢字のように表意文字(特定の「絵・形」が特定の意味を表わす)として様式化されたわけでもない。しかし、北アメリカ大陸に移住後の1万年以上前から、身の回りの自然や動物、信仰、観念、史実などの記録として描かれてきた「絵文字」は、北アメリカ原住民の文化・芸術生活の重要な側面を占めてきた。

【手法】 北アメリカ原住民の「絵文字」は、その手法によって、主に2つの種類——ピクトグラフとペトログリフ——に分けられる。

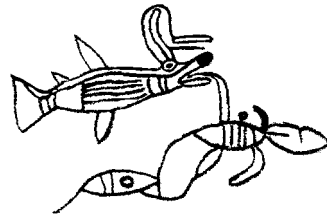
ピクトグラフ(pictograph)は、岩の表面や、樹皮、動物の皮、貝殻などに、主として鉱物から採った塗料で描かれたものである。広く使われた色は、赤鉄鉱から作られた赤。これに加えて、石炭、黒鉛の黒や、石膏、珪藻土などから採れる白が使われることもあった。さらに、南西部の一部や南カリフォルニアのチュマッシュ族などの地方では、青、緑、黄などの多彩な色が使われることもあった。細かくすりつぶされた鉱物は、動

物や植物から採れる油、卵の白身、水などと混ぜ合わされ、直接指や棒で、または小枝や植物の穂から作られた筆などで彩色された。

ペトログリフ(petroglyph)は、岩の表面を彫りこむことによって描かれている。北アメリカ大陸に見られる「絵文字」の大多数はこの手法によるもので、とくに岩場に囲まれた地形の多い南西部やグレートベースン地帯では、何千もの場所で見ることができる。背景として好んで使われた岩は、比較的やわらかくて彫りやすい砂岩、玄武岩、花崗岩で、表面をより硬い石で引っかいたり、のみ打ちしたりして描かれた。

【分布】 北アメリカの「絵文字」文化は、特定の地域・部族に限られず、密度の差はあるものの、大陸全土にわたって観察される。とくに密集して見られる地域は、「絵文字」の背景としてよく使われた岩肌の露出した地形が広がるカリフォルニア、コロンビア川流域の台地地帯(カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州からワシントン、オレゴン、アイダホ州にまたがる地域)、グレートベースン地帯(ネバダ州の大部分およびユタ、オレゴン、カリフォルニア州の一部)、南西部(アリゾナ、ニューメキシコ、コロラド、ユタ州)。ただし、博物館に移築・保存されたり、国立・州立公園

図1 スプラウト湖州立公園のペトログリフ(一部)



注)カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー島、ポート・アルバーニ市の郊外。湖に面する岩壁に、潮の満ち干きや季節によっては水面下に隠れる高さに彫られている。この地のヌートカ族がヴィジョン・クエストの際に見た伝説上の海の魔物を描いたものとも、ヌートカ族の神話にてくる神霊の手によるものとも言われている。